

知床五湖の利用のあり方協議会（第8回）議事録

1. 場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

2. 日時：平成22年3月30日（火） 18：00～20：30

3. 出席者：別紙のとおり

4. 配布資料

資料1－1 利用適正化計画の修正案

資料1－2 知床五湖利用適正化計画（案）に寄せられたご意見

資料2－1 キャッチフレーズ案リスト

資料2－2 ヒグマ対処法引率者名案リスト

資料2－3 受付・レクチャー施設名案リスト

資料3－1 知床五湖とその周辺における自動車・利用者の流動の解析
（北海道大学大学院 愛甲准教授）

資料3－2 知床五湖の利用コントロール導入に対する利用者の評価
（北海道大学大学院 庄子准教授）

資料4－1 知床五湖利用コントロール導入実験実施要綱案

資料5－1 受付・レクチャー施設の諸室構成及び機能概要について

資料5－2 五湖案内施設配置図（案）

資料5－3 受付・レクチャー施設平面検討図

資料5－4 植生保護期の立入認定手続きの流れ（素案）

5. 議事概要：

(1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

(2) 議題1. 利用適正化計画の修正案について

環境省：資料1-2の修正箇所の説明

ウトロ地域協議会：479行目の記述の中で、介助犬の持ち込みではなく、人間による介助を強く推奨するという文言については妥当か。

環境省：できれば人に引率して入ってもらいたいとからこの言葉を用いている。

ウトロ地域協議会：来た時にわかるような表示は設置するのか。

環境省：掲示については、これから始める整備の中で考えていく。

しれとこウトロフォーラム 21：前もって情報を得る必要があるため、五湖に来てからでは対応は出来ないのではないか。

ウトロ地域協議会：介助犬を連れて入ることはできないと記載してはどうか。

斜里町：ヒグマが生息している地域であることから、(クマ対処経験のない)犬の同伴は不要なトラブルを誘発する恐れがあるので、できれば避けたい。しかし「介助犬同伴禁止」を強く打ち出すと、五湖の特殊事情を知らない人からの反発が予想される。

しれとこウトロフォーラム 21：この文言のままでは、絶対に介助犬を連れて入ると言われた場合には入れなければならないことになる。断ることができるような言葉にすべきでは。

知床ガイド協議会：以前、介助犬を連れて五湖を利用したいと言われた時に、ヒグマ等の理由を説明し、介助犬の同伴をお断りしたことがあるが、そのお客様から、法的な根拠がないのではないかと言われた。連れて入れないと書くことで問題が起きる可能性もある。この程度の表現が適当ではないか。

しれとこウトロフォーラム 21：この書き方だと入ることができるようになり、他の人を危険にさらす可能性がある。

知床ガイド協議会：ヒグマ活動期には引率者の判断(引率能力を理由)で断ることは出来るが、植生保護期は(指定認定機関等)断ることは出来ない。また、連れて入れないと書くことも出来ない。

斜里町：頭ごなしに連れて入れないと書くと軋轢を生む。特殊事情を丁寧に説明して、理解してもらおう方がよいと思う。それでも無理に入ると言う人はあまりいないだろう。

知床温泉旅館共同組合：介助犬を連れての高架木道の立ち入りは可能か。

環境省：可能。この書き方だと、知床五湖の施設全体について、介助犬の立ち入りが不可だと受け取られてしまうおそれがあるので、地上遊歩道という言葉を追加する。

環境省：飲食物の持ち込みに対しての意見はあるか。

ウトロ地域協議会：ガイドが問題ないのであればよいと思う。

知床ガイド協議会：ガイドをする際には、持ち込み禁止にしている。ペットボトル等については特に問題はない。この書き方でよいと思う。

ウトロ地域協議会：337 行目の部分の団体という言葉の削除にともなって、他の箇所の変更が必要となる。P12 418 の団体利用と書かれた部分の変更が必要。

環境省：337 行目の修正に沿うように他の部分を修正する。

知床ガイド協議会：P11 の注意事項の中で、化粧品のおいについて記載する必要はないか。

斜里町：飲食物と同様に、化粧品のおいもヒグマ誘引の原因となりえるが、五湖に立ち入る前に化粧をおとす等して、においを消してもらうことは難しい。

知床財団：食物の持ち込み規制は、ヒグマが人の食物を食べてしまうことで、においと食べ物を結びつけてしまうことを避けるのが趣旨。ヒグマにとって、化粧品のおいと食べ物とが結びつかないのでは問題ないのではないか。

環境省：現時点で作成したもので本省と調整し、来月の半ばからパブリックコメントとして全国から意見を聞くこととしたい。今後の手続きを進めていく中で修正する箇所が出てくる可能性があるが、変更については個別に確認をとりながら進めていきたい。

一同：異議なし

(3) 議題 2. 各種名称について

環境省：施設の名称は、一番投票数の多かった「知床五湖フィールドハウス」としたい。

引率者の名称は、法律的には、対処法引率者としてもよいのではと考えているが、対外的にアピールしていく時には、分かりやすいものがよい。上位の 3 つくらいから選んだ方がよいと考えているが、どうか。

知床ガイド協議会：外国語にした時におかしくなるような言葉はないのか。

環境省：翻訳してわかりやすいのは、レンジャーだと思う。知床財団としてはどうか。

知床財団：それほど気にすることではない。全てそれらしい言葉であると思う。

ウトロ地域協議会：知床五湖だけの制度なので、頭に「知床五湖」と付けた方がよい。

しれとこウトロフォーラム 21：ネイチャースタッフやレンジャー等、すでに様々な団体が使用している名称を新に使用する場合は、混乱を招くおそれがあるのではないか。そのため、すでに使用されている名称は避けた方がよい。

環境省：名称についてはこれから考えていかなければならないが、五湖〇〇というように、「五湖」か「知床五湖」という言葉を頭に付けた名前にする。

知床財団：観光協会の中では、売りやすい名前等はないか。

観光協会：既に使用されている名称では混乱が起こるとの指摘を受けたが、名称は運用と PR の仕方次第である。バッジ等目印があれば、よいのでは。名称とそのようなものがワンセットとして考えていけばよいと思う。

ウトロ地域協議会：簡単で、明確なものがよい。ガイドのトップということで、ガイドマスターなどはどうか。

環境省：「ガイド」という名称は、ネイチャーガイドから使わないでほしいとの意見が出ている。

しれとこウトロフォーラム 21 : かつこいい耳障りのよいものにするか、実質的にガイドを仕分ける意味づけを持たせたものにするかをはっきりと決めた方がよい。「ガイド」という名称を使うことに対しては、デリケートな問題であるのかもしれないが、利用者の側からしてみれば、あまり重要な部分ではないのかもしれない。

ウトロ地域協議会 : ネイチャースタッフ等の呼び名だと、一般的なものになってしまう。五湖で使用するには、ヒグマに対するものであるということに重みがあるものにしなければならない。

環境省 : 引率される側として、呼びやすい名前にした方がよいのでは。

知床ガイド協議会 : いつまでに決定をするのか。

環境省 : PR 活動を考えても夏前までに、決定したい。

知床ガイド協議会 : 22 年度に行う実験の中で、お客様に投票してもらってはどうか。

ウトロ地域協議会 : 何点か名称を絞る等、案を出してから投票をしてもらう方がよいのではないか。自分たちがどのように呼ばれたいか、主体性を持ってやった方がよいと思う。

環境省 : パブリックコメントでは、「登録引率者 (仮称)」とし、名称は実験参加ガイドによる協議、又は協議会の場で決めることとしたい。それで決まらないようであれば、実験の際に、参加者の意見を聞くことにする。

環境省 : キャッチコピーについて。上位 3 つくらいから選ぶのがよいかと思う。しかし、このキャッチフレーズから、今回のシステムが、ヒグマを見に行くためのものであるという誤解がうまれないように注意する必要がある。2 つの新しい知床五湖の利用方法があるということを上手く表しているが、クマの扱いについての表現をもう少し工夫をしたものにしたい。その表現をどう工夫できるか検討した案を事務局の方で 3 つほど出すようにして、夏前までに決定したいと考えるので、一旦、キャッチコピーについては預からせて欲しい。

(4) 議題 3. 平成 21 年度知床五湖における交通量調査と意識調査の結果報告

愛甲准教授 : 「知床五湖とその周辺における自動車・利用者の流動の解析」について、調査報告を行った (資料 3-1)。

庄子准教授 : 「知床五湖の利用コントロール導入に対する利用者の評価」について、調査報告を行った (資料 3-2)。

知床ガイド協議会 : 駐車場の入庫待ちというのは、どのように定義したのか。

愛甲准教授 : 渋滞発生時に、車列の末尾に到着した時刻と、駐車場に入った時刻の両者を記録し、入庫待ちはそれらの時間から計算して出した値。表では実際に並んでいた台数ではなく、10 分間に入庫待ちの状態になった車の台数。

知床ガイド協議会：渋滞するラインは？

愛甲准教授：渋滞が発生するラインは入庫と出庫の累計の台数を差し引きして、95 から 100 で渋滞が生じるのではないかと予想される。

ウトロ地域協議会：昨年のお盆は、例年に比べて駐車台数はどうだったのか。

自然公園財団：例年のお盆の三分の一ほどだった。しかし、例外としてシルバーウィークは、数キロの渋滞が発生した。

ウトロ地域協議会：この報告は少ない状況の時のデータであるため、例年と比べたら、数値は変動するのではないか。

愛甲准教授：途中で引き返した車もあった。渋滞がより長くなると、引き返す人も増えると考えられる。お盆に混むと想定して調査したが、天候や歩道の開閉の関係で、予測が外れてしまった。現在、過去の車の出入りの台数、天候、及び歩道の開閉等の条件で、どれくらいの車が来るかどうかの分析を行っている。

しれとこウトロフォーラム 21：このデータを生かすために、どのタイミングでどのように進めるのか。

環境省：利用者の少なくなる昼の時間帯に利用を勧めるようにするための情報提供と、手前から公共機関の利用を強く推奨していきたい。

しれとこウトロフォーラム 21：高架木道の利用者は自由な時間で入れるが、レクチャーを受けて利用する方はスケジュールを合わせて行かなければならない。渋滞に巻き込まれてしまうと、レクチャーに間に合わないおそれがある。

環境省：植生保護期に関しては、着いた順で手続・レクチャーを受けることとなる。ヒグマ活動期は予約して入ることになるため、時間に余裕を持って来てほしい旨を伝える。バス等で来てもらえば渋滞のおそれはないため、そのような利用を推奨する。

知床温泉旅館共同組合：集合場所を現地にするのか、手前にするかで駐車場の利用が変わってくる。また、五湖駐車場の整備が必要であると思う。段差のある部分に対して対処をするべきではないか。

環境省：段差の解消を行うことによってどれだけ駐車台数が増えるかは検討したことがあるが、駐車台数が数台増えたとしても、お盆等の混雑期になると追いつかなくなると思う。

知床温泉旅館共同組合：何も対処をしないというところが納得出来ない。

ウトロ地域協議会：駐車場の検討が出来るのかできないのか。検討する気があるのかないのか。答えが欲しい。

環境省：現在レクチャー施設の建設で手一杯となっている。駐車場まで手が回らない状況である。駐車場の段差の解消は、渋滞解消につながらず、根本的な解決になるとは思っていない。段差の問題だけでなく、シャトルバスの利用を推奨していく等、トータルで考えた中で、駐車場をどうするかという検討をすべき。

ウトロ地域協議会：検討する場は必要であると思う。段差の問題だけでなく、シャトルバスのことも含めて、協議すべきではないか。

斜里町：国立公園の利用適正化検討会議の中でもアクセスコントロールは大きな議題とするとの考えはまとまっている。五湖だけでなく、その他の部分まで含めて考えていかなければならない大きなテーマである。駐車台数のキャパを増やすだけでは、駄目である。情報の出し方や、シャトルバス利用等の組み合わせで、全体として効果が出てくるものと思っている。知床全体の問題として詰めていかなければならないと思っている。

ウトロ地域協議会：利用適正化検討会議の中には、行政関係者の方が多く、地域の意見が言いにくくなっている。この問題に対して、ずっと言っていることであるのだから、どこかで取り上げてもらいたい。

知床温泉旅館共同組合：どこかで話をしていただかないと、この話は進んでいかないのではないか。

環境省：五湖のアクセスの問題はこの場で話すのが、一番よいと考えている。一方、カムイワッカのマイカー規制の問題についても現在調整しているが、五湖のシステムの開始とカムイワッカの道路の通行の開始はともに23年度からとタイミングが一致している。アクセスの問題に関しては、一緒に議論していく必要があると思う。

知床温泉旅館共同組合：その様な話をどこでするのか。

環境省：マイカー規制協議会の行政関係者は、道路管理者の網走土木現業所と警察が参加している。五湖のアクセスについてこの協議会で話し、マイカー規制協議会にフィードバックしていくような形にしていきたい。2つの協議会を一緒におこなうことは難しい。

しれとこウトロフォーラム 21：情報の共有の必要がある。切り離しては、このシステムの話は進んでいかない。

環境省：すっきりとしたやり方を提案していきたい。その為には、地元の人達との議論、合意形成が進まない、アクセスの問題は進んでいかない。次回の協議会では、アクセスの問題について議論できるような資料を用意する。一度アクセスの問題について、この協議会で議論を進めるようにしたい。

知床温泉旅館共同組合：駐車場がいっぱいになる可能性があるのであれば、アクセスの問題も考えに入れていかなければならない。少しでも渋滞を解消するような努力が必要。

環境省：渋滞が延びることに対して、あらゆる可能性の中でどのような対策を取り得るかについて、この場でも話して行く必要がある。

知床ガイド協議会：五湖に立ち入る人の圧力が分散するという面で、渋滞が起こることはよいという見方もできる。五湖に入ることでできる人数を割り出して、その後で駐車場の適正な大きさを割り出すというような視点もある。その後、渋滞の解消の為の対策を考えるととなると、話が大きくなりすぎてしまい、難しいと思う。

環境省：上高地では、マイカー規制をすることによって入り込みが増えたという事例もある。上高地は広いので、問題は無いが、五湖は植生保護期には、1日の利用者人数は三千人と決められている、溢れた人は高架木道のみの利用となるのは歯止めとなるが、人が沢山いる高架木道に行くことが、良いことかどうかは、議論する必要がある。

しれとこウトロフォーラム 21：利用者は流動的なので、これで確定すると誤算が生じる。データと照らし合わせながら、どのようなシステムが有効なのか時間をかけて考えていかなければならない。なお、上高地は、マイカー規制をすれば入り込みが増えた例としてよく例示されるが、実際には、観光需要が増加した全国的なトレンドにのっただけとの指摘を聞いたことがある。マイカー規制をすれば入り込みが増えるような例としては使わないでほしい。

環境省：渋滞対策については、この協議会で一度話し合い、その結果を他の協議会に提供をしていくという形にしたい。やり方については、専門家の方々とも話しをしていく必要があるが、知床五湖の渋滞対策については、この協議会で議論していくということを通認認識としたい。

しれとこウトロフォーラム 21：(庄司先生の発表に対して) 10%の意味は何でしょう。

庄司先生：五湖を訪れる人の10%という意味。五湖に10人訪れた際、このシステムを利用する人が1人いるということ。この数値は少し高めであり、本当に10%の人が利用したら、このシステムは回らなくなってしまうかもしれない。

環境省：植生保護期は1日最大3000人と見込んでいるが、この数字は、今シーズンの最大の利用者数を数えた時をほぼ同じ。それに対してヒグマ活動期は1日300人となる見込みであり、10%という数値は、この割合とも一致している。ただし、利用希望の多い時間帯では、溢れた人は高架木道の利用をしてもらうことになる。この問題の解消には、事前の情報提供をしっかりと行う必要がある。

(5) 議題 4. 平成 22 年度知床五湖利用コントロール導入実験について

環境省：資料 4-1 について説明

(6) 議題 5. 施設整備計画(案)について

環境省：資料 5-1,2,3 説明

ウトロ地域協議会：レクチャー施設の入口の設計について、パターン 2,3 ではトイレは建物の中からは入れない設計だが、何か理由があるのか。

環境省：1つ目の理由としては隣にある休憩スペースからの導線を確保したこと。もう一つは券売システム。券を買う人とトイレに行く人が一箇所に集まりすぎると混雑が生じることが懸念されるため、トイレと受付の導線を分けて設計している。

ウトロ地域協議会：レクチャー施設の中からトイレに行けないのは団体が混乱するのではないか？

環境省：団体が来たらまずセンターの広場にあるトイレに行ってからレクチャー施設へ入ってもらうというような導線がスムーズではないかと考えている。

ウトロ地域協議会：レクチャー施設に入ってしまったからもトイレに行きたいという人はいるのではないか。入口の近くにトイレへの入口を作ることはできないのか。

環境省：導線の関係もあるので、意見を受けて検討する。

知床ガイド協議会：女子トイレの数がもう少し多い方がよいが増やすことはできないか。

環境省：増やせるかどうかは検討するが、基礎条件として給水施設の水量が決まっている。

図面のトイレの数も計算しないとわからないがおそらく大丈夫ということで設計している。これ以上増やせるか水量を計算する必要がある。また、建物の面積もほぼ決まっておき、配置や、男子の穴数を調整すれば女子トイレを増やすことが検討できると思う。

ウトロ地域協議会：今現在のトイレ数として、男子は足りているが、女子は圧倒的に足りない。男子が1つ少なくなっても女子を多くしてもらえるように検討してほしい。

環境省：意見を受けて検討したい。

ユートピア知床：水量の配管についてはレクチャー施設と休憩施設に2本に分かれるのか。

配管が1つだとトイレが大きくなることで休憩施設の水量が少なくなるのではないか。

斜里町：レクチャー施設であまった水が休憩施設に供給されていくわけではない。現在の仕組みは途中まで1本のもが途中で2本に分かれ、トイレ側と五湖レストハウス側に行き、一部五湖レストハウス側に行っているものがトイレをバックアップしている。

環境省：今の懸念は2つの施設で水を使うことで水圧や水量が下がるということだと思うので、設計の段階で不都合が起きないように計算したい。

ウトロガイド協議会：混雑するのは一時的なので、貯水槽を作ることが可能であれば水を確保しやすいと思う。

環境省：意見を受けて検討したい。

ウトロガイド協議会：トイレの入口付近等、待ち時間に利用者が日差しを避けられる場所があると良い。

ウトロ地域協議会：高架木道の入口にデッキが設計されているが、大型バスの駐車位置は変更されないのか。目の前にバスが駐車しているのは良くない。

環境省：今でもバスの影になって、高架木道の入口がわかりづらいという指摘はある。これからは休憩施設と高架木道入口部分が顔となるので、バスと乗用車の駐車場所を入れ替えるなど対応を検討していきたい。

ウトロ地域協議会：駐車場の段差は大型バスや身障者などすべてに関わってくるので、どうにかできないか。

しれとこ・フォーラム21：段差を直してほしいというのは地域の人間がすべて思っているがそこに手をつけられない理由を教えてください。

環境省：駐車場は北海道、道は町などそれぞれの組織が管理し、予算を使うことになる。検討をしていないのではなく、今後整理をしていかななくてはならず、すぐには動けないという状況である。

しれとこ・フォーラム21：変えられる可能性があるのなら伝えてほしい。地域としては理由を知りたい。今後解決策があるのであれば、少しでも先に進めてほしい。

ウトロ地域協議会：縦割り行政でそれぞれの立場があるのはわかるが、協議をしなければ話が進まないの、どこかが音頭を取って話を進めてほしい。

知床温泉旅館協同組合：駐車場の整備ができるのはこのチャンスしかないと思う。

環境省：だれがいつ実施するかという問題もあるが、国立公園の特別保護地区という地域なので、駐車場の輪郭を外に広げるということはできない。その場合、スペースを有効に使うために段差をなくしたいという意見は理解できるので、きちんと受け止めて考えていきたい。

建物は平成 23 年度のスタートに合わせて整備していくが、建物の外構は同時に工事できない。外構工事は平成 23 年度の秋以降の工事になるだろう。さらに駐車場は何年後かになるが、一体として良い施設にして行きたいというのは共通の思いである。しかし、だれがいつ行えるのかについては行政側で検討が必要である。

環境省：建物の外観について意見はあるか

ウトロ地域協議会：夏場は日差しが強く、日陰は重要。一日中日が当たっている部分、日陰になっている部分など施設計画の中で考えてほしい。日陰があるトイレ待ち、雨天の時もよい。レクチャー施設で券を買ってからトイレに行きたいという人が発生する可能性がある。そのときにトイレ渋滞になっていると焦ると思うので、導線はよく考えてほしい。

環境省：トイレについては全体の穴数などの問題と合わせて検討したい。日陰をできるだけ大きくしたいというご意見はもっともである。建物の見た目にもあまりボリューム感を出したくないということもあり、よい方法を模索していくことになる。

ウトロ地域協議会：レクチャー施設と休憩施設は、デザイン的に整合性をとる予定か。

環境省：その予定である。また、建物の前は雁木になり、3mくらい軒になる予定。

知床ガイド協議会：パターン 2 だけ受付が 2 名座れるようになっているが、受付は広い方がよいと思う。

環境省：受付のスペースの関係は事務作業量にもよる。捕捉だが、今の設計では券売機がカウンターの上に乗っているが、本当にそれでよいのか、例えば記帳台が必要であれば中央や壁側に設置するなど含めて考えたいが、植生保護期の事務手続の流れにも影響されるので検討させていただきたい。

資料 3-4 については議論によって左右されるので、シュミレーションしながら検討したい。

環境省：高架木道は終点展望台まで完成し、道道開通と同時に供用開始する。オープン時に簡単なイベントを行いたいと考えている。それを契機として愛称を募集するなど全国的なアピールを行いたいと考えている。今後も協力をお願いしたい。

環境省：閉会挨拶